



「DO YOU KYOTO?」ロゴマーク

月刊

あじenda 4 月

みやこ
京のアジェンダ21フォーラム 事務局通信
月刊あじendaは当フォーラムの活動紹介を中心とした
京都発、環境関係の情報発信紙です



京のアジェンダ21フォーラム事務所

〒612-0031

京都市伏見区深草池ノ内町13

京エコロジーセンター2F 活動支援室内

TEL: 075-647-3535

FAX: 075-647-3536

E-mail: ma21f@mbx.kyoto-inet.or.jp

開室時間: 8時45分～17時30分(木・日休室)

アクセス: 京阪電車「藤森」西へ徒歩5分

地下鉄・近鉄「竹田」東へ徒歩13分

市バス・京阪バス「青少年科学センター前」南へすぐ

幹事リレーコラム

温室効果ガス大幅削減に向けて、フォーラムはどう取り組むか

フォーラムでは 2009 年度事業として、温室効果ガス大幅削減（京都市の環境モデル都市行動計画では 2030 年までに 90 年比 40%削減、2050 年までに 60%削減）実現に向けた「中長期展望の策定と、そのための具体的な方策の検討」プロジェクトを、フォーラム幹事の参加のもと実施しています。フォーラム設立 11 年目を迎えた今、社会の地球温暖化防止についての意識が高まり、各主体による取組も活発にされるようになってきています。国も 2050 年までに 90 年比で温室効果ガス 80%削減目標を打ち出しました。

このような社会の状況に合わせて、フォーラムのあり方、活動内容や方法も見直していく必要があります。

そこで、このような背景を踏まえて、プロジェクトにご参加いただいている幹事に、望ましい京都の未来像を目指すに当たってのフォーラムの今後の役割、あり方などについて、寄稿をお願いしました。第 5 回目は、津村昭夫フォーラム幹事です。

【イラスト：京のアジェンダ 21 フォーラム入会案内「京のアジェンダ 21 フォーラムが目指す京都!」より】



第 5 回 「エネルギー地産地消の“京都モデル”」発信へ

京のアジェンダ 21 フォーラム 幹事 津村昭夫（特定非営利活動法人 KES 環境機構・専務理事）

「幹事リレーコラム」今月号は「事業者の立場から見たフォーラムとのかかわりなどについて」というテーマでの寄稿依頼である。

京のアジェンダ 21 フォーラムが設立された当時は、産業界としては大手企業を中心に ISO14001 をベースに環境改善活動が実施されていたが、人・物・金の経営資源が厳しい中小企業においては ISO14001 は高いハードルとなっていた。そこで、アジェンダフォーラムの企業活動ワーキンググループを中心として、「シンプルで、低コストな環境マネジメントシステムの“京都モデル”K E S」を策定し、主に中小企業の環境改善活動のツールとして地域のネットワークを活かし取組みをすすめた。この「京都モデル”K E S」は全国に広まり（2010 年 2 月末現在で審査登録数は 3,213 件、そのうち京都府内は 1,326 件）、それに伴い国内においてはいくつかの「中小企業向け環境マネジメントシステム」が

誕生するに至り、環境専門誌からも「KES は、中小企業向け環境マネジメントシステムのフロンティア」としての評価もいただいている。

これにより、個々の企業における環境改善活動のツールは準備でき、多くの企業で「環境管理活動」に取組まれてきた。ただ「温室効果ガス排出削減目標が 6%から 25%」と産業界を取り巻く外的状況が大きく変化している現在では、従来の「管理」を主体とした活動では対応が困難になりつつあり、これからは環境マネジメントシステムが備えているもう一つの機能である、環境への配慮を企業経営に統合する、いわゆる「環境経営」にウエイトシフトした取組みが必要と考える。

しかし、ご承知の通り現在世界的な不況にあり、企業経営は大変厳しい状況にある。特に K E S が関係する中小企業は経営の存続そのものが問われるケースもあり、現在登録中の企業の確認審査に訪問



Agenda Forum 4 月の予定



バスと電車でecoグルメ! 2010 年 4 月 30 日（金）まで

京都観光でエコでお得な特別企画
バスと電車でecoグルメ!
2010年1月5日～4月30日

しても操業率が 50%以下で、環境改善活動の実績確認が困難な企業も多い。ところでこの不況から脱却するため、不況の震源地であるアメリカでは昨年オバマ大統領誕生と同時に「グリーン・ニューディール」政策なるものが打ち出され、日本でも新政権は「環境で雇用創出と経済回復」を提唱している。「エコロジーとエコノミーの両立」である。即ち産業界が元気になり積極的な環境改善活動を進めるためには「環境経営」が「企業の持続可能」につながる仕組みをつくることである。そこで、先に言及したグリーン・ニューディール政策の目玉の一つに「スマートグリッド（次世代送電網）」が提唱されている。これは一定のエリア内にある複数の分散型電源（太陽光発電やコージェネなど）や負荷（家庭や工場、ビルなどの需要家）を I T（情報技術）を付加してネットワーク化し、送電網を通じて双方を制御する「次世代エネルギー供給システム」のことで、いわゆる「エネルギーの地産地消システム」として注目され、新ビジネスを生み出す革新性を秘めるものとして、現在世界各国が国際標準を狙っている。

環境改善のセオリーは「Think Globally, Act

Locally（地球規模で考え、地域から活動を）」といわれるが、まさしく全体の温室効果ガス排出削減目標などの大議論は各国首脳が世界の舞台で行われるが、その実現はローカルな舞台で行われる典型的な事例である。ひるがえって京都を見るとき、幸いにも世界トップレベルの環境関連や I T 関連企業が集積している。問題は、これらをどのようにシステムとして活かすのかという知恵と工夫と努力が求められている。まさに学識者・事業者・市民団体・行政などによるパートナーシップで成り立っている「京のアジェンダ 21 フォーラム」であるからこそ実現できる事業ではないだろうか。そこで、「地場産業の活性化と次代のエネルギー政策発信」のため、「スマートグリッド 京都モデル」をアジェンダフォーラムでの取り組みとすることを提案したい。このシリーズのトップバッターの内藤代表も「京都市も“環境モデル都市”を目指すことになり、2030 年に 40%削減といった目標が打ち出され、これに対応するには社会の構造改革なしにはありえないので、いよいよアジェンダフォーラムの本格的な出番である」とのご指摘に適った活動ではないだろうか。

「地域で広げるグリーン電力 ー京グリーン電力運営協議会発足記念ー」が開催されました 京グリーン電力制度の新たな体制をお披露目 活動範囲を京都府に拡大します！

2月24日（水）に佛教大学にて、フォーラムも構成団体になっているグリーン電力運営協議会主催で「地域で広げるグリーン電力 ー京グリーン電力運営協議会発足記念ー」が開催されました。

昨年10月に同制度の運営主体がフォーラムから京グリーン電力運営協議会に移行したことを記念し、同制度についてより多くの府民に知ってもらい、「低炭素のまち・京都」をつくるために、同制度が果たす役割等について考えることを目的に開催されました。

まず初めに佛教大学社会学部学部長的場信樹先生、同大学教授でフォーラム代表でもある内藤正明先生から挨拶があり、次いで協議会事務局から、活動範囲を京都市内から京都府内に拡大したこと、今後は企業にも協力発電所になるよう依頼していくことが紹介されました。その後、協議会代表の松岡憲司氏のコーディネートで、行政、企業、大学、NPOといった様々な立場の参加者によるパネルディスカッションが行われました。「今後は食べものやエネルギーを地域でつくっていくことが必要であり、地産地消の京グリーン電力制度が果たす役割は大きい」、「環境マネジメントシステムにおいて、グリーン電力証書購入はプラスの環境目標として活用できる」といった期待の声のほか、「販売できる量が少ない」、「証書購入による効果の『見える化』が必要」といった課題が出され、会場も含め、活発な意見交換がなされました。終了後には、佛教大学の大規模な太陽光発電設備（50kW）の見学会が行われました。

今後も京グリーン電力制度が地域に愛され、多くの主体の参加協力によって発展していくことを期待します。

●京グリーン電力制度に関する連絡先

京グリーン電力運営協議会事務局

（有限会社ひのでエコライフ研究所内）

TEL・FAX 075-708-8153 E-Mail office@miyako-gpc.com

URL <http://www.miyako-gpc.com/>



*フォーラム事務局では「京グリーン電力制度 試行事業報告書」を作成中です。完成後はWebページ上でも公開する予定です。

京のアジェンダ 21 フォーラム 2009 年度事業報告

今年度もフォーラムの事業にご参加、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。3月号に続き、フォーラムが2009年度に実施してきた事業の進捗状況をご報告いたします。

■ 各地域に環境コミュニティを育てる取組 京都環境コミュニティ活動（KESC）プロジェクト

「京都環境コミュニティ活動（KESC）プロジェクト」では、京都の小学校区を対象にしたそれぞれの地域で、地域の事業者、学校、住民などの各主体が協力して、環境問題に取り込む仕組みづくりを目指して活動しています。

◇ 自然エネルギーチーム

地域で働く事業者と生徒達で「電気」について考えながら勉強しました。

【参加事業者】生田産機工業（株）、（有）森田電設、（株）エコロ 21、京都市立洛陽工業高等学校、（有）村田堂

手回し発電や、小さな風車、展示物や PPT を使い、生徒も実際に触れたり、視覚でも楽しめる内容の授業でした。手回し発電で電気を起こす体験をした生徒からは、「電気を作る事が大変だった」との声があり、また「風車や太陽光の発電が思った以上に少ない」などの生徒からの声を受け、先生からは「日本では地球に優しい自然エネルギーの使用量が少ない事等、生の情報を生徒が知ることができてよかった。」「家に帰っても、電気の付けっぱなしなど気を付けたい」などのご意見をいただき、環境への意識が高まり良い授業となりました。

◇ 交通環境学習チーム

「地域で働く人達と『くるま』について考えよう」をテーマに、3つの小学校やイ

ベントにて、地球温暖化と車の使い方についての環境学習を実施しました。昨年度に比べ、児童を惹き付ける小道具や教材の使用等、より創意工夫を凝らしたものとなりました。

【参加事業者】（株）ホンダカーズ京都、（株）エコロ 21、（有）村田堂、（株）東映京都スタジオ「東映太秦映画村」、京都市

◇ 市民共同おひさま発電所づくりチーム

2007 年度、2008 年度に太陽光発電

パネル設置の寄付をした保育園やイベントにて、手作りの環境学習紙芝居と自然エネルギーや手動で動くおもちゃの実演を行いました。昨年と比べ、だいぶ園児とのやり取りが上手くなりました。

【参加事業者】公栄運輸（株）、京都電測（株）、科研製薬（株）、市民

◇ 水源の森づくりチーム

2007 年に、現地の地域の特性や、その地の林業の歴史や現状の座学を受けて

地域への理解を深めました。2008 年には実際に間伐の実習をし、より多くの事業者に参加してもらうに当たり、安全に作業を行う為に安全基準のマニュアルを作成しました。2009 年には実際にそのマニュアルに基づいて、植樹作業と間伐作業を行いました。これまでの森林整備の集大成としての報告書も作成中です。

【参加事業者】月桂冠（株）、日本電気化学（株）、（株）エスケーエレクトロニクス、三幸総研（株）、（株）京都テクニカ、（有）村田堂

「水源の森づくりチーム」による森林整備作業を実施

環境保全型の森づくり活動 5 回目となる今回は、広葉樹の苗木の植樹と間伐作業を行いました。これまでの 4 回の間伐作業により、以前は暗かった放置人工林の中に光が入るようになっていきます。この間伐地や周辺に 50 本余のコナラなどの苗木を植樹を行いました。作業に関して京北森林組合の指導者より、植える穴の掘り方や植え方、獣害避けの設置方法などの注意事項の講習を受けました。シカなどの食害や積雪、土壌条件によって生育が異なるので、成長を見守りたいと思います。森林保全の意義を学ぶ講義から、間伐・植樹までの一連の現場研修を終えた森林整備活動の経験は、今後各社の CSR 活動に活かされることでしょ



【参加者】20 名 参加事業者名：月桂冠（株）、日本電気化学（株）、（株）エスケーエレクトロニクス、三幸総研（株）、（有）村田堂 【指導】京北森林組合、京都市産業観光局農林振興室林業振興課

* 京都環境コミュニティ活動プロジェクトにご関心をもたれた方はフォーラム事務局までお問い合わせ下さい *

＊大切なお知らせ メールマガジン『京えこめる』に登録ください＊

月刊あじえんだ 3 月号でお知らせしていますが、『月刊あじえんだ』は今号で終了いたします。今後は、メールマガジン『京えこめる』を配信させていただきます。3 月 12 日配信の『京えこめる』準備号が届いていない方は、フォーラムウェブページより登録のお手続きをお願いいたします。(配信先メールアドレスの変更をご希望の場合も同様にお手続きください。)

＊『京えこめる』では携帯メールはご利用いただけません。

＊メールアドレスをお持ちでない方は、フォーラム事務所までご連絡ください。『京えこめる』と同じ内容をお手元にお届けいたします。

■ イベント案内などの情報発信をご希望の団体会員の皆さまへ

月刊「あじえんだ」終了後のイベント情報の受付について

これまで『月刊あじえんだ』発送の際、イベント案内などを同封させていただいていましたが、今後はメールマガジンでのご案内となります。『京えこめる』でのイベント案内掲載希望の際は、フォーラム事務所までメールにて次の内容を明記の上、ご連絡ください。

メールタイトル:『京えこめる』イベント案内掲載依頼

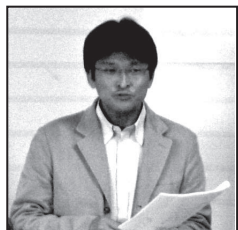
メール本文: イベントタイトル、開催日時、開催場所、概要(100 字程度)、イベント情報の詳細がわかる URL アドレス、主催者、問合せ先

＊『月刊あじえんだ』の発行は終了しますが、年に数回の機関誌の発行を予定しています。機関誌発送の際には、イベント案内チラシなど同封できますので、事前に『京えこめる』でお知らせいたします。



事務局よりお知らせ 4 月より新事務局長が着任、新体制でスタートします。

■ 新事務局長ご挨拶



はじめまして。このたび、事務局長に就任しました井上和彦と申します。10 年程前から環境市民の活動に携わっており、この 3 月までは大阪府豊中市のローカルアジェンダ 21 を推進する組織で働いていました。これからは生まれ育った京都で、多くの人や団体と一緒に社会の流れを作っていく中で、京のアジェンダならではの役割を果たしていく、そんな仕事ができればいいなと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

■ 退職のご挨拶

今年度をもって、京のアジェンダ 21 フォーラム事務局職員を退職することとなりました。在職中は多々、至らぬところもございましたが、会員である環境 NPO、事業者、市民環境ボランティアの皆さまのご参加、ご支援を賜り幅広い活動が出来ましたこと、お礼申し上げます。

引き続きフォーラム活動へのご参加をよろしくお願いいたします。末筆となりましたが皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。(西本雅則)

.....

3 月末をもって、フォーラム事務局を退職することとなりました。この 5 年間、様々な立場で熱心に活動されている方々との素敵な出会いがあり、貴重な経験をさせていただきました。4 月からは、産官学民の枠を超えて公共的な活動をコーディネートする人材養成プログラムの開発の仕事に関わる予定です。引き続き大好きな京都に住み、環境保全には市民活動で取り組んでいきます。会員の皆様には大変お世話になり、有難うございました。(小山直美)

事務局短信 春は別れと出会いの季節です。我が家の長男もこの春高校入学となります。中学までの楽しい思い出や経験を生かし、新しい先生やお友達と今までの体験以上に充実した日々が過ぎますように!桜の木を見ながらしみじみと・・・。(奥井祐子) / 4 月といえば新学期、背中一杯のランドセルをゆさぶって登校する一年生は何とも可愛いですね。今では低学年から環境問題について勉強するようになりましたが、子供達の作文で教えられることがあったりして頼もしく感じます。(小西賢人)